［釈文］

北陸三県／大津なみ　縁かいな節

（上段）

「北陸の、つなミ騒ぎハ、なか〳〵に眼も当られぬ
　有形ハ、離れ〴〵に親と子がなるも、宿世の縁かいな、
「親の譲りの家蔵を、地震の為につぶされて、
　なんと十方に暮の鐘、これも自然の天さいな、
「地震のあとの大つなミ、驚く中へまた火事と、
　生る心ハ更になし、実に大きな難かいな、
「先祖代々伝りし、宝物・田地おし流し、何所へ
　行にもあてハなし、早く救ひハこんかいな、
「禍ひ蒙る三県ハ、後の世までもはなしだね、
　聞も憐れな青森に、岩手・宮城の県かいな、
「一時よせ来る大つなミ、逃るも引もあらばこそ、
　腹に動気（悸）を打浪の、枹ハどん〳〵ドンかいな、
「聞も語るも皆涙だ、こんどつなミの人死ハ、
　負傷合せて六万余、実にむざんな事かいな、
「万死をのがれて一生を、たすかる漁師の運強く、
　不幸のうちの僥倖ハ、おめぐミ下さる／天かいな、

（下段）

「難に罹りし／万民ハ、
世渡る業も／なく計り、
恵む政府の／救助米、
有がた涙が／出るわいな、
「府県市内の／人々が、
東西南北／奔走し、
有志の者が／募集して、
贈る義えんの／金か／いな、